

長野県の教育をめぐる情勢

激変する社会構造や子どもをとりまく環境・・・誰も経験したことのない時代

○人口減少、少子高齢化の急速な進行

本県の年間出生数は2006年以降減少(2021年は12,512人で過去最少を更新) 小学校数 H25:381校⇒R4:355校
 …中山間地域の多い長野県では、学校教育の質の維持が課題(学校統廃合、学校間連携、遠隔授業等)

○VUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の時代

新型コロナウイルス感染症による臨時休校・分散登校や学校行事の中止・縮小、令和元年度東日本台風による学校施設の被災
 …どのような状況にあっても、自ら問いを立て、課題解決に主体的に立ち向かえる力(子ども主体の修学旅行の企画等)

○多様性の時代

不登校児童・生徒数(1000人当たり) H25:11.8人⇒R2:23.7人 通級指導教室利用者数(小学校) H25:184人⇒R2:747人
 …学校の多様化複雑化、学校の役割の肥大化・丸抱え状態、教職員の疲弊、教員志願者の減少、多様な学びの機会の必要性

○デジタル化の急速な進展

1人1台タブレット整備、文化・スポーツ等、様々な学びのコンテンツが充実、「いつでも」「どこでも」「誰とでも」学べる環境
 …学びの組み合わせ(場・人等)が可能に(教室の時間・人材・財源の確保・再配分、学校の多層構造化)

長野県の学びの歴史・風土・・・信州教育が大切にしてきた子ども主体の学び

- ・ 県民の学ぶ意欲の高さ(江戸時代の寺子屋数日本一、明治時代の小学校通学率日本一、人口当たり図書館数全国有数)
- ・ 教科だけでなく、生活習慣や感情・情操の育成にも重きを置き、知・徳・体を一体的にバランスよく育成する“全人教育”
- ・ 子どもが本来持っている主体性や学ぶ意欲への信頼に基づく教育(子ども第一主義、伊那小等の「自ら学ぶテーマを決める学習」等)
- ・ 時代の先端の教育を創り上げていた教員と環境(熱心な教員による自主的研究組織、旧開智学校・旧中込学校等の先進的な洋風建築)

今後の方向性・・・これからの社会を創造する力を育む長野県教育へ“アップデート”

- **幸せや喜びを実感するプロセスを重視する学習観・評価観へ一層転換**
 - ・ 「探究」する楽しさ、ワクワク感が実感できる教育課程、非認知能力を評価
- **一律・一斉・一方向型の教育からの脱却**
 - ・ 場所、進度、時間割、教材等の個別最適化
 - ・ 多様な認知特性に対応し、特異な才能・能力が伸ばせる環境
- **多様な他者と「対話」「協働」し学びを深める環境づくり**
 - ・ 地域や企業との連携、外部人材の登用、専門性のある教職員の採用育成
- **デジタル化による新たな学びの可能性への挑戦**
 - ・ 教育DX(データ活用、AI教材、CBT等)による学びの個別最適化
 - ・ 教職員の働き方改革・資質向上

～学校・教員の再定義～

(再定義するうえでの視点)

学 校

- ・ 社会のあらゆる人たちが協働し参画する場
- ・ 子どもも大人も学び合う場としての学校…
- ・ 社会や民間の力を活用する地域の拠点…

教 員

- ・ 子どもと共に学び続ける共同探究者…
- ・ 見守り、導いてくれる立場…
- ・ 専門性を持った多様な教職員集団…

長野県教育が目指す姿

「個人と社会のWell-beingの実現」

- (A案) ~ 誰もが「好き」をあきらめず、とことんきわめ、形にできる「探究県」長野の学び ~
- (B案) ~ 一人ひとりの「好き」や「楽しい」をとことん追求できる「探究県」長野の学び ~
- (C案) ~ 「出る杭」も社会で育み、支える「探究県」長野 ~

- ・好きなことや楽しいことにもっと浸りたい、興味関心があることをさらに追求したいという気持ちを大切に、主体的な学びや多様な他者との対話・協働を通じ、誰もがやりたいことを実現して幸福な状態で人生を送ってほしいという願いを込めている。
- ・信州教育は、過酷な自然環境に打ち克つため果敢に自己革新を重ねてきた伝統があり、そこでの「革新」は多様性から生まれてくるという認識のもと、個々の特性や才能を認め、伸ばしながら幸福な状態で人生を送ってほしいという願いを込めている。

Well-being

- 【個人】一人ひとりの存在やいのち、人権や個性が当たり前で尊重され、自分らしく自分が生きていようように生きること
- 【社会】一人ひとりが当事者意識をもち、身に付けた知識や技術を最大限活用し、自ら考え、他者と協働しながら、社会を創り上げていくこと

目指す姿を実現するためのキーワード

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により、幼児期に芽生えた「『探究』する心」をさらに伸ばす
 … 自分の“なぜ、どうして”と思うことに深い知識を得たり、解明しようとする“気持ち”

重点政策及び施策方向性

◆一人ひとりが自分にとっての「Well-being」を実現できる学校をつくる

- ・探究による学びの深化（科目デザイン、相互単位認定等）
- ・教職員の資質向上（特色ある私学や大学等との連携等）
- ・教職員の働き方改革の推進（休日部活動地域移行等）
- ・ …

◆一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる

- ・多様な認知特性に応じた学びの環境整備（特性を把握するアセスメント方法の研究、通級指導教室、校内リ・スクール等）
- ・福祉分野と連携した学校施設の利活用（子ども食堂等）
- ・ …

◆生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる

- ・共学共創による地域づくり（NSDプロジェクト、地域連携調整役設置等）
- ・多様な人材の学校への参画促進
- ・幼保小中高の学びの接続
- ・ …

◆文化・スポーツに身近に触れられる環境を整え、共感と交流が生まれる機会を充実する

- ・デジタル技術を活用した学びの基盤整備（電子図書館、歴史資料のデジタルアーカイブ化等）
- ・学校体育・運動部活動等の充実（効果的なICT活用による運動技能差によらない体育授業等）
- ・ …